

「伝統」沖縄空手の世界

山田 江美

1. はじめに

沖縄は空手の発祥の地とされている。私は幼い頃に空手を習っていたので、沖縄が空手の発祥の地と知り興味を持った。

事前調査で沖縄空手というものを知った。しかし、沖縄空手の定義がよく分からず、沖縄空手の世界を調べることにした。この論文ではインタビューを通して分かった沖縄空手の内部を紹介し、これから沖縄空手がどのような方向に向かっていくかを考察したいと思う。

2. 空手とは

2.1 空手の分類

一口に空手といっても様々なものが存在する。空手は大きく伝統派空手とフルコンタクト空手の2つに分けることができる。この2つの大きな違いは組手という相手と戦う競技で自分の攻撃を相手に当てるか当てないかというところにある。伝統派空手は寸止めルールを採用している当てない空手であり、フルコンタクト空手は直接打撃制ルールを採用している当てる空手である。また、伝統派空手は古伝空手とスポーツ空手からなっていて、フルコンタクト空手は極真空手とグローブ空手と総合空手からなっている。

| 空手 | | | | |
|-------------|--------|----------------|--------|------|
| 伝統派空手（当てない） | | フルコンタクト空手（当てる） | | |
| 古伝空手 | スポーツ空手 | 極真空手 | グローブ空手 | 総合空手 |

図1 空手の分類

2.2 伝統派空手

古伝空手は伝統派空手のうち、競技化、スポーツ化を志向せず、古流の空手スタイルを重視している空手を指す。特徴は、古来からの鍛錬法の重視、武器術の伝承などを挙げることができる。

スポーツ空手は本土で盛んに行われている競技化を志向している空手で、インターハイや国体などで行われている空手のことを指す。

2.3 フルコンタクト空手

極真空手は素手で行う顔面以外への攻撃をルールとした空手のことを指す。

グローブ空手はグローブをはめ顔面への攻撃も許された空手のことを指す。

総合空手は突き・蹴りだけでなく、投げ技・組技・寝技なども取り入れ、総合格闘技に近い形での試合を行う空手を指す。



写真1 古伝空手



写真2 極真空手
(国際空手道連盟極真会館ホームページより)

3. 話者

私は3日間の調査で4カ所の道場を訪問することができた。

3.1 外間哲弘氏

初日にお話を伺ったのは首里にある沖縄剛柔流拳志会空手道・古武道総本部であり、沖縄県空手博物館でもある道場の館長・外間哲弘氏である。外間氏はアメリカはじめ、15カ国で空手古武道を指導している。そして、1987年に現在の沖縄県空手博物館を設立した。現在は著書や論文を出しながら道場で留学生や子供から大人までたくさんの人に空手を教えている。

拳志会では18時から21時まで稽古の見学・体験をさせてもらった。体験稽古を通して私が昔覚えた型の中には様々な古伝空手の技が隠されていることが分かったり、カーミと呼ばれる道具で指先を鍛える独特な稽古方法を教えてもらったりして、私が本土で学んだ空手と古伝空手の違いを身をもって知ることができた。

3.2 宮里善博氏

2日目は那覇市安里にある、沖縄剛柔流空手道協会に所属している順道館の宮里善博氏にお話を伺った。順道館は宮里氏の父親である宮里栄一氏によって創設された。善博氏は栄一氏の影響で空手を始め、現在は後を継いで順道館の館長を務められている。

沖縄剛柔流空手道協会は1969年に宮里栄一氏により創設され、現在は県内支部道場10道場、県外6道場、及びアメリカ・ヨーロッパ・アジア等にも支部道場を開設し、毎年4月に協会主催の選手権大会並びに海外セミナーも実施している(沖縄空手

道協会ホームページ参照)。

3.3 山城勝也氏

3日目は糸満市潮平にある国際沖縄剛柔流空手道連盟に所属している山城道場の山城勝也氏と読谷村のむら咲むら施設内にある沖縄伝統空手道古武道国際研修センターのワールド王修会沖縄小林流空手道古武道連盟会長である知念賢祐氏のお二人にお話を伺うことができた。

山城勝也氏は空手で生計を立てているプロの空手家である。沖縄県には何百人もの空手家がいる中、山城氏のようなプロの空手家は4～5人しかいないそうだ。

国際沖縄剛柔流空手道連盟は1979年に創設された。現在、沖縄を基に全国への普及に努めて各地で合宿を行い、又海外には60ヶ国に支部を置き年1回、ヨーロッパ・ロシア・オセアニア・南北アメリカ等で合宿が行われている。4年もしくは5年に一度、世界大会が催され世界の人々との稽古を通じて友好、親善を深めている(国際沖縄剛柔流空手道連盟秀武館ホームページ参照)。

3.4 知念賢祐氏

知念賢祐氏はワールド王修会沖縄小林流空手道古武道連盟を創設し、西欧ではフランスを拠点に空手を教えている。現在フランス本部をはじめ、ポーランド、カナダスペイン、イタリア、インド、ベルギー、ドイツ、スイス、スロベニアの9カ国に支部を置いている。また、読谷村のむら咲むら施設内にある沖縄伝統空手道古武道国際研修センターは、空手発祥の地として、沖縄伝統空手・古武道の修練を希望する国内外の空手家に対し研修の機会と場を提供し、同時に世界各地で沖縄伝統空手道を指導する人材を育成する(沖縄伝統空手道古武道国際研修センターホームページ参照)ために2002年に設立された。

4. 沖縄での空手

4.1 沖縄空手

では、今回の調査テーマである沖縄空手とはどんなものなのだろうか。

沖縄空手は沖縄に本拠をおく空手流派であり、古伝空手に分類される空手であるが、最近ではスポーツ空手の中核である全日本空手道連盟に加盟している流派もあり、特徴を一律に語ることは難しい(「空手道」Wikipediaより)。

元々は古伝空手のみを指していた沖縄空手だが、現在は沖縄で行われている古伝空手とスポーツ空手の両方を指す場合もある。また、1984年に『沖縄空手道の歩み』が出版された。調査の結果、この本は「沖縄空手」という言葉が初めてタイトルに使われている本であることが分かった。これより前までは「沖縄の空手」などと呼ばれており、「沖縄空手」という単語は出ていなかった。このことから「沖縄空手」とは最近使われるようになった言葉ではないかと考えられる。

また、沖縄での調査を通して、沖縄空手の定義は個人によって捉え方が少しずつ違うと感じた。沖縄空手をスポーツ空手と古伝空手をまとめて指す人もいれば、古伝空手のみを指す人もいたのである。そして、「沖縄空手のスポーツ化」という言葉もたくさん耳にし、沖縄空手が古伝空手とスポーツ空手の二極構造になりつつある、ということが分かった。

4.2 古伝空手とスポーツ空手

古伝空手とスポーツ空手の違いをさらに詳しく説明していきたいと思う。

まず、空手をする目的・目標だが、古伝空手の場合は目的が人生を豊かにすること、目標は試合に出るために修行することで、結果（勝ち負け）は関係ないそうだ。人生を豊かにするということは人それぞれで違ってくると思うが、インタビューに応じてくださった山城勝也氏は「周りの人のプラスのために、幸せになるために空手をしている。」と言っていた。今回、インタビューに応じてくださったことにもそのような気持ちで込められていると感じた。それに対し、スポーツ空手の目的・目標は頂点に立つこと、頂点に立つものが一番敬われるということだった。

空手をする上での危険度は、古伝空手は大きく、スポーツ空手は小さい。古伝空手には一瞬にして相手を倒してしまう技がいくつもあり、限られた人にものみ伝承されているという。そんな危険な技でむやみに人を殺さないように、自分の身を守るためだけに使うよう技に込められた思想は「受け」で、古伝空手の型はすべて受けから始まる構成になっている。また、「空手に先手無し」という言葉まであり、道場に飾られているのを見つけた（写真3）。一方、スポーツ空手は古伝空手の危険な技を排除し競技化されたために危険度は小さい。大会はポイント制で4点先取なので自分から「攻撃」しなければならず、「先手必勝」という思想が浸透している。

また、古伝空手の沖縄での勢いは、35年くらい前までは勢いがあり、本土で勢いのある極真空手も入れないくらいだったが、現在ではスポーツ空手が盛んに行われている。道場の数は古伝空手の方が多いのだが、人口は学校の部活などで盛んに行われているという理由からスポーツ空手の方が多いそうだ。

このようにおなじ伝統派空手でも古伝空手とスポーツ空手は方向性が180度違うものだということが分かった。

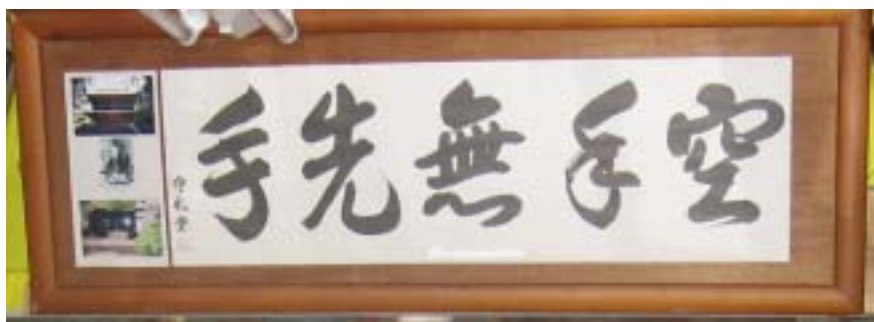


写真3 空手に先手無しの額

表1 古伝空手とスポーツ空手の違い

| | 古伝空手 | スポーツ空手 |
|-----|----------------|-------------|
| 目的 | 人生を豊かにすること | 頂点に立つこと |
| 目標 | 試合に出ること | |
| 危険度 | 大きい 受け 空手に先手無し | 小さい 攻撃 先手必勝 |
| 勢い | 小さい | 大きい |

5. 二極化と軋轢

5.1 二極化の理由

4.2より、古伝空手は35年くらい前まで勢いがあったことが分かったが、なぜ現在は古伝空手が衰退しスポーツ空手と混在しているのだろうか。

ここでは調査で分かった二極構造化のプロセスを説明していきたいと思う。

(1) 沖縄外への伝播

沖縄外というのは本土と海外のことだが、まずは本土への伝播を説明していきたいと思う。1871年の廃藩置県後、沖縄師範学校や沖縄県立第一中学校の体育で使用され、武術が体育的性格へと変化する。このとき、急所攻撃や関節折り、武器術などの危険な技が排除される。これが競技化への第一歩となる。そして、1922年第1回体育展覧会が東京で開催された際、初めて古伝空手が本土で公開された。その後、1934年には大日本武徳会から柔道の一部と言う扱いではなく日本の武道空手道として承認される。

次に海外への伝播だが、海外への伝播は戦後になってからだった。なぜなら、海外へはアメリカ兵が伝播したからだ。宮里善博氏によると、宮里氏の父親がアメリカ軍基地に空手を教えに行っていて、空手を習ったアメリカ兵が自分の国に帰った後、今度は自分が空手を教え、海外に空手が広まった、とのことだった。アメリカ軍基地に教えに行っていたのは宮里氏の父親だけでなくたくさんの指導者が教えに行っていたという。アメリカ兵と空手の関係はほかでも見られた。カーミと呼ばれる指先を鍛える古伝空手の道具は戦後、アメリカ軍用の水筒や一斗缶で代用されていた。また、1960年4月30日付けの沖縄タイムスには、「兵隊さん空手ブーム」の記事が載った(外間2001)。



写真4 カーミ

(2) スポーツ空手の発展・拡張

本土に伝えられた古伝空手は学生の手によって競技化された。1955年10月、明治大学道場で拓殖大学、慶応義塾大学、明治大学の3校が集い、各校10名の選手でリーグ戦が行われた。この試合で空手の試合化が十分に可能なことが証明され、本格的に競技化へと進みスポーツ空手が誕生した。

そして、一般の人々にもスポーツ空手が浸透し、大会もたくさん開催された。

(3) 沖縄へ逆輸入

本土で生まれたスポーツ空手が勢力を拡大し沖縄へ入ってきたのは1965年のことだ。本土より20人の選手が沖縄を訪れ、公開試合を開催した。この後、スポーツ空手は徐々に沖縄でも勢力を拡大し、現在に至るようだ。

知念賢祐氏の発言より、「1970年前までは古伝空手が根強く、極真空手も入れないほどだったが、古伝空手は生徒数が少ないことと、派手な情報発信をしなかったため現在はスポーツ空手が盛んに行われている。」とのことだった。

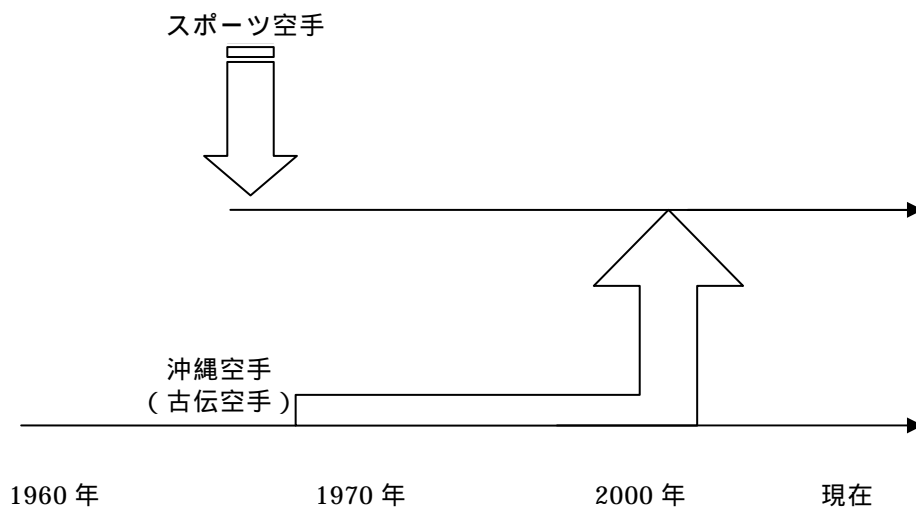


図2 スポーツ空手の逆輸入と古伝空手の分岐

5.2 古伝空手とスポーツ空手の軋轢

沖縄に古伝空手とスポーツ空手の2つの空手が存在する裏には対立が起きていることが分かった。

(1) 小さな二極化 スポーツ化を取り入れた道場を破門

沖縄空手の組織の一つに沖縄剛柔流空手道協会というものがある。この協会は古伝空手の組織であるが、3年前に3つに分裂したという話を聞くことができた。

古伝空手の関係者の方によると、競技化の流れで20~30年くらい前から古伝空手の方からも国体に出場しようと言う意見があった。しかし、国体出場のためには沖縄県空手道連盟というスポーツ空手の中核的団体に加盟しなければならなかった。そし

て、沖縄県空手道連盟に入ることへの賛成派の人と反対派の間で対立が起きたと考えられる。結局、どんな対立があったかまでは調べることができなかったが、古伝空手の沖縄剛柔流空手道協会は一つの方向に向かうことなく分裂した。スポーツ化に進む人たちと古伝空手を伝承しようとする人たちと、もう一つは噂だそうだがトップの人間関係の対立によって分かれた人たちの3つに分かれたという。

同協会の宮里善博氏の話からはスポーツ化に進んだいくつかの道場は破門されたという話が聞けた。破門されたのは宮里善博氏の道場の近くにある道場で、現在はスポーツ空手を教えているという。

(2) 対立に嫌気がさし海外へ

知念賢祐氏はワールド王修会沖縄小林流空手古武道連盟というフランスに本拠を置く古伝空手の組織を立ち上げた。また、読谷村のむら咲むらの中にある沖縄伝統空手道古武道国際研修センターにも所属している。研修センターでは3つの古伝空手の流派が教えられているが、これまで見てきた古伝空手とスポーツ空手のような軋轢はなく、お互いに尊敬しあっているという。ワールド王修会沖縄小林流空手道古武道を立ち上げたきっかけは沖縄でたくさんのいざこざを見てきたので海外へ飛び出したかったと言っていた。

知念氏は古伝空手とスポーツ空手の対立はあると断言した。「古伝空手はスポーツ空手の勢いを上回るくらいの勢いがないければ意味がない(古伝空手からスポーツ空手が派生したため)。60歳の古伝空手の空手家はスポーツ空手の30歳の空手家に勝る力を持っている。それなのにスポーツ空手の人たちは自分たちの方が上だと言っている。スポーツ空手は古伝空手を分かっていない。攻撃と受けでは思想が全く違う。受けるということは相手の攻撃の前に予測できなければできない。受けの稽古をすることで人との関わり合いの中でも一瞬で相手の行動が予測できるようになる。こういう力は(何を考えているか分かってしまうため)時に恐ろしい時もあるが、古伝空手は技を通してこの力を求めている。」と話してくれた。

このように二極化に向かっている沖縄空手の中には軋轢があり、古伝空手の内部では組織が分裂し、また、話を聞いた古伝空手の3人の空手家からは軋轢を隠そうとする様子はほとんど見られなかった。

6. 古伝空手を愛する外国人

6.1 古伝空手を愛する外国人

今回の調査で訪れた4カ所の道場のうちすべての道場で外国人の方を目にした。首里にある沖縄空手博物館ではインドのチャンピオンのセーガルさん。この方は一ヶ月の留学で来ている。セーガルさんの次に来るのはオーストラリアの方と決まっていて、しばらく先まで予約があるという。那覇にある順道館ではアメリカ人兵士の方を2人見ることができた。また、道場の中には外国人用に英語で書かれた道場訓があった。

読谷村にある沖縄伝統空手道古武道国際研修センターでは英語圏の Ainouche Sofiane さんが古伝空手を教えていた。



写真6 インドのチャンピオン

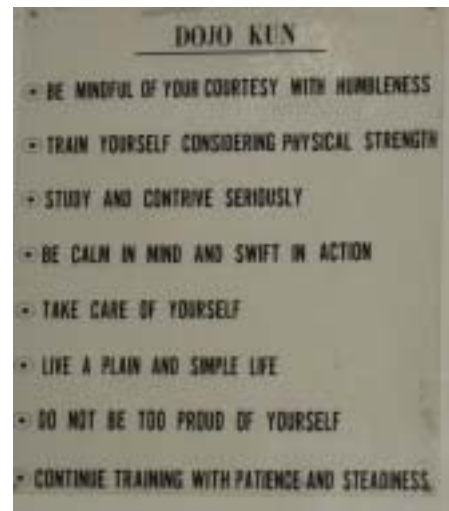


写真7 英語で書かれた道場訓



写真8 順道館



写真9 沖縄伝統空手道古武道国際研修センターの Ainouche Sofiane さん

6.2 留学生

空手博物館に来ていたインドのセーガルさんのように留学できている人は少なくない。留学生は2週間から3週間道場に通り詰めて古伝空手を学ぶ。本土から来る日本人は2泊3日の研修がほとんどのため、比較すると留学生が熱心なのが分かる。

セーガルさんは古伝空手をインドで教えている。そのため、セーガルさんに教えた空手がインドで広まるので正確に教え、覚えてもらわなければ間違った空手が広まってしまうため、日本人の生徒以上に厳しく何度も教えられていた。

また、留学生は女性が多く、順道館に今年来たオーストラリア人女性は10人中7人で、アメリカ人女性は20人中8人だったという。宮里善博氏によると欧米では男女平等が進んでいるから女性が多いのではないかと語っていた。

6.3 沖縄に来る理由

なぜ外国人は沖縄で空手を学ぼうとするのか。現在ヨーロッパでは日本とは逆に古伝空手が盛んに行われている。その古伝空手への関心は発祥の地である沖縄に向けられているのである。

ヨーロッパでのスポーツ空手は約30年前に研究し尽くされ、現在レベルは日本より高い。世界空手連盟(WKF)の日本人役員は現在1割しかおらず、ヨーロッパの選手にあったルールに変えられ日本人は世界で勝てないという現状がある。しかし、スポーツ空手の目的である「頂点」に立ってしまった選手はスポーツ空手を練習する意義に行き詰まってしまう。そこで、スポーツ空手より歴史のある古伝空手に興味を持ち空手をする目的を求め、沖縄にやって来る。沖縄で研修を終えた外国人空手家は自分の国で古伝空手を教え、ヨーロッパでは古伝空手が盛んに行われているようだ。

これとは逆に日本人のスポーツ空手の選手はスポーツ空手を研究し尽くしたヨーロッパに学びに行くという現象が起きている。

沖縄に外国人空手家が来る理由を話して下さった知念賢祐氏と山城勝也氏は、上記のことをほとんど同様に話していた。よって、古伝空手の世界にヨーロッパの選手が沖縄に来ることに共通の理解があるようだ。

7. まとめ

沖縄空手の歴史を調べた結果、沖縄にスポーツ空手が入ってきたのが1960年代で「沖縄空手」と言われるようになったのが1980年代、とスポーツ空手が沖縄に入ってきた後に「沖縄空手」と呼ばれるようになったことがわかった。これより、スポーツ化がきっかけで「沖縄空手」という言葉が創られ、元々沖縄で「空手」としか呼ばれていなかったものが沖縄空手と呼ばれるようになったと考えられる。その背景には、沖縄に根強かった空手(古伝空手)をスポーツ化から守り、伝統として残したいという気持ちがあったのではないかとインタビューから感じた。

しかし、スポーツ空手と区別するための沖縄空手は現在二極構造化へと進んでいた。人により沖縄空手の捉え方が少しずつ異なり、古伝空手を指す人もいれば古伝空手とスポーツ空手を指す人もいた。そして古伝空手とスポーツ空手には軋轢があり、古伝空手の組織が分裂したり、スポーツ化を図る道場が破門されたり、海外に新しく組織をつくった人もいた。

対立の中、空手発祥の地として知られている沖縄にはたくさんの外国人が古伝空手を追い求めに来ているが、沖縄の空手家は古伝空手ではなく、スポーツ空手を極めるため海外へ出ている。

スポーツ空手の世界から古伝空手の世界へと流れているヨーロッパ同様、今後沖縄でもスポーツ空手の選手が古伝空手の世界へと流れていく日もそう遠くないと考えられる。

参考文献

外間哲弘 (1984) 『沖縄空手道の歩み』 外間道場刊行委員会

外間哲弘 (2001) 『空手道歴史年表』 エムティ出版

参考ウェブサイト

沖縄剛柔流空手道協会 <http://www.ogkk.jp/menu.aspx> (2008/02/08)

沖縄伝統空手道古武道国際研修センター

<http://www.okinawakarate.jp/karatePortal/index.jsp> (2008/02/08)

Wikipedia 「空手道」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A9%BA%E6%89%8B%E9%81%938> (2007/07/09)

国際沖縄空手道連盟 秀武館 <http://www.shoobukan.com/gojuryu.html> (2008/02/08)

国際空手道極真会館 <http://www.kyokushin-fukui.com/news.html> (2008/02/08)